

## 山崎川川岸（名古屋市瑞穂区）で発見されたナミギセル

川瀬 基弘<sup>(1)</sup> 鵜飼 普<sup>(2)</sup> 大矢 美紀<sup>(3)</sup>

- (1) 愛知みずほ大学人間科学部 〒467-0867 名古屋市瑞穂区春敲町2-13  
 (2) 三河淡水生物ネットワーク  
 (3) NPO「山崎川グリーンマップ」 〒467-0008 名古屋市瑞穂区村上町1-22-1

## *Stereophaedusa japonica* (Crosse, 1871) discovered from the river bank of Yamazaki-gawa, Mizuho-ku, Nagoya, Aichi Prefecture, Japan

Motohiro KAWASE<sup>(1)</sup> Futoshi UKAI<sup>(2)</sup> Miki OYA<sup>(3)</sup>

- (1) Department of Human Science, Aichi Mizuho College, 2-13 Shunko-cho, Mizuho-ku, Nagoya, Aichi 467-0867, Japan.  
 (2) Mikawa Freshwater Life Network  
 (3) NPO 'Yamazakigawa Green Map', 1-22-1 Murakami-cho, Mizuho-ku, Nagoya, Aichi 467-0008, Japan.

Correspondence:  
 Motohiro KAWASE E-mail: kawase@mizuho-c.ac.jp

### 1. はじめに

2016年9月21日に、名古屋市瑞穂区松園町（山下橋付近）の山崎川左岸において、名古屋市で絶滅危惧IB類（名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課，2015）に指定されているナミギセル *Stereophaedusa japonica* (Crosse, 1871) の成貝が発見された（図1～3）。

ナミギセルは本州、四国、九州北部に広く分布するキセルガイ類で、各地に地域変異個体群があり、多くの亜種が記載されている。標準和名ナミギセル〔並煙管〕の通り普通種とされているが、愛知県内の分布は限定的で、生息地点数は少なく生息範囲も狭い（野々部ほ



図2. コンクリート階段を這うナミギセル

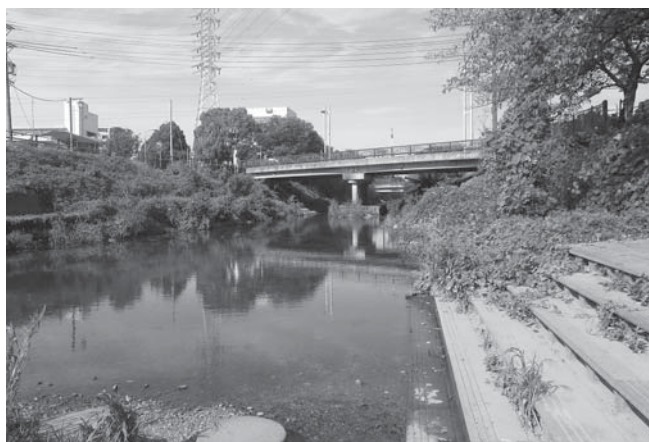


図1. 山下橋付近のナミギセルの生息地



図3. リター層に生息するナミギセル

か、1984；名古屋市動植物実態調査検討会，2010；名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課，2015）。特に名古屋市内では八事丘陵の南西部に位置する瑞穂区内のごく一部の自然林のみに生息が確認されていたが（守谷，2004；名古屋市動植物実態調査検討会，2010），宅地開発等によりその生息が危ぶまれる。その後，今回の発見に至るまで本種の生息の確認はなく，名古屋市内からの絶滅が危惧されている。

なお，著者の一人である鶴飼により，名古屋市東区木ヶ崎（矢田川左岸）で2014年9月10日に生貝1個体が発見されたが（名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課，2015），その後の調査で追加確認はできず，発見場所は増水時に完全に水没するため，ナミギセルが定着していた可能性は低く，上流域から偶然に流れ着いた1個体のみが発見された可能性が高いと判断した。

このような理由から今回の発見場所におけるナミギセルの生息状況を把握するため，2016年10月12日に再調査を行った。その結果，瑞穂区松園町付近の山崎川川岸にナミギセルが多く生息していることを確認したので報告する。

## 2. 名古屋市のナミギセルの生息状況について

名古屋市内におけるナミギセルの記録は，野々部ほか（1984）が愛知県内の記録の1つとして，名古屋を挙げているが，詳細な地名については記されていない。守谷（2004）は，名古屋市内の陸産貝類を調査し，瑞穂区弥富町と同区丸根町からナミギセルを報告しているが，2016年10月現在，弥富町では絶滅寸前であり丸根町では絶滅した（守谷茂樹氏私信）。また，2012年には，名古屋市内全域を対象とする陸産貝類の一斉調査が行われ，市内33地点が詳細に調べられたが，ナミギセルは発見されていない（川瀬，2013）。また，2012年から2014年にかけて，「レッドデータブックなごや2015（名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課，2015）」の基礎調査が行われたが，偶然に侵入したと考えられる東区木ヶ崎（矢田川左岸）での1個体のみ発見以外にナミギセルは発見されなかった。

## 3. 結果とまとめ

2016年10月12日に，瑞穂区松園町（山下橋付近）の

山崎川川岸とその周辺を再調査した。現地付近の川岸（両岸）は，コンクリート護岸に豊富な腐葉土とリター層（落葉落枝層）および草本植生が発達し，桜並木が形成されている。最初の発見場所である左岸を調査したところ，リター層の直下（腐葉土の表面）あたりにナミギセルの成貝を多数確認することができた。特に，コンクリート階段隅のリター層の下では個体数が多く，多いところでは30cm四方に5～10個体程度が生息していた。約1時間の簡易的な調査だけでもナミギセルの成貝を100個体程度確認でき，左岸にはナミギセルの比較的大きな個体群が形成されており，その個体数はかなり多いと推定された。確認したナミギセルの最小個体は，殻高21.4mm，殻径5.5mm，最大個体は，殻高27.1mm，殻径6.0mmであり，平均殻高は約25mmであった。ナミギセル以外には，トクサオカチョウジガイ，オカチョウジガイ，ナミコギセル，コハクガイ，オナジマイマイ，ウスカワマイマイ，イセノナミマイマイ，ヒメオカモノアラガイなどを確認することができた。この中でトクサオカチョウジガイは極めて高密度に生息しており，陸産貝類の優占種であった。他の比較的に付いた大型動物は，ミミズ類，ヤケヤステ属の一種，オカダンゴムシであった。

調査地では2012年に陸貝の一斉調査が行われているが（川瀬，2013），ナミギセルは発見されていない。2012年の一斉調査は24人でリター層の分析まで詳細に行われたので，ナミギセルが生息していれば確実に発見されていたはずである。従って，今回発見されたナミギセルの個体群は，2012年以降にこの地域に侵入して大量繁殖したか，或いはわずかな個体がもともと生息しており，近年になって個体数が急増したかのいずれかと考えられる。

対岸の右岸も調査を行ったところ，ナミギセルの生貝を発見したが，個体数は左岸に比べて極端に少なかった。左岸で大量繁殖した個体群の一部が，増水時に右岸に流れ着いたと考えられる。実際に，調査地の川岸からは増水時に流されたと考えられる淡水貝の死殻が頻繁に見つかり，調査から約一ヶ月前の台風の時には，水位が大きく上昇し，ナミギセルが大量に棲息していた左岸の場所の大部分は水没していた。

瑞穂区では生息個体数は極めて少ないものの，ナミギ

セルの生息が以前から確認されていることから(守谷, 2004), 瑞穂区内に生息するわずかな個体群が, 近年急激に個体数を増加させた可能性がある。なお, 愛知県のナミギセルの分布は極めて限定的で, 生息地点数は少なく生息範囲も狭い(野々部ほか, 1984; 名古屋市動植物実態調査検討会, 2010)。例えば, 近年の豊田市の調査においてもナミギセルの生息場所は極めて少なく個体数も少ないことから, 豊田市の希少種ランクは絶滅危惧IB類に選定されている(川瀬, 2016)。このような現状から愛知県のナミギセルの個体群はもちろん名古屋市のナミギセルについても移入個体群である可能性を否定できない。

#### 4. 謝辞

この報告をまとめるにあたり, 緒方清人氏にはヤスデ類を写真で同定していただいた。守谷茂樹氏には瑞穂区のナミギセルの現状について, 木村昭一氏には愛知県のナミギセルの分布・生息状況について, それぞれ御教示いただいた。以上の方々にこの場を借りてお礼申し上げます。

#### 引用文献

- 川瀬基弘. 2013. なごやで探そう!カタツムリ, なごや生きもの一斉調査・2012 陸貝編 報告書. 名古屋生物多様性保全活動協議会. 29 pp.
- 川瀬基弘. 2016. VII 軟体動物. 豊田市生物調査報告書作成委員会(著). 豊田市生物調査報告書〈分冊その1〉, pp.309-341, 口絵13-15. 豊田市.
- 守谷茂樹. 2004. 名古屋市内の陸貝の現況. かきつばた, 29, 25-31.
- 名古屋市動植物実態調査検討会(監), 2010. レッドデータブックなごや2010 - 2004年版補遺 -. 名古屋市環境局環境都市推進部生物多様性企画室, 名古屋. 316 pp.
- 名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課. 2015. 名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックなごや2015—動物編—. 名古屋市環境局環境企画部環境活動推進課, 名古屋. 504pp.
- 野々部良一・高桑 弘・原田一夫. 1984. 陸産貝類. 佐藤正孝・安藤 尚(編). 愛知の動物, pp.23-40. 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋.